

微生物線虫防除剤

農林水産省登録 第20064号

# パストリア<sup>®</sup> 水和剤

パストリア ペネトランス水和剤

ネコブセンチュウから



根を守る！



サンケイ化学株式会社

# パストリア<sup>®</sup>

## 水和剤

登録番号：農林水産省登録 第20064号  
有効成分：パストーリア  
ペネトランス孢子 $1.0 \times 10^9$ 個/g  
性状：褐色水和性細粒及び微粒  
人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)  
包装：100g袋

### 特長

- 生物農薬でありながら扱いが簡単
- ネコブセンチュウを餌にして自己増殖する
- 他の防除技術との併用が可能(クロルピクリンおよび蒸気消毒は除く)
- 有機農産物に使用可能な適合農薬(天敵微生物)
- 環境および作物にやさしい

### 適用病害虫の範囲及び使用方法

平成26年12月17日現在の登録内容

| 作物名     | 適用病害虫名   | 使用量       | 使用液量         | 使用時期 | 本剤の使用回数 | 使用方法       | パストーリアペネトランスを含む農薬の総使用回数 |
|---------|----------|-----------|--------------|------|---------|------------|-------------------------|
| 野菜類・いも類 | ネコブセンチュウ | 1～5kg/10a | 150～200ℓ/10a | 定植前  | —       | 土壌表面に散布し混和 | —                       |
|         |          | 0.5g/穴    | 1ℓ/穴         | 定植時  |         | 植穴土壌灌水     |                         |
| いちじく    |          | 1～5kg/10a | 150～200ℓ/10a | 定植前  |         | 土壌表面に散布し混和 |                         |
|         |          |           | 300ℓ/10a     | 生育期  |         | 土壌表面に散布    |                         |

### パストリア水和剤と従来の線虫剤との比較

|           | パストリア水和剤        | 従来の線虫剤   |
|-----------|-----------------|----------|
| 作用ステージ    | 成虫              | 卵、幼虫     |
| 根こぶの形成    | 有               | 無        |
| 効果の早さ     | 遅効性             | 速効性      |
| 処理後の有効成分量 | 増加(ネコブセンチュウ存在時) | 減少       |
| 残効        | 長い(数年単位)        | 比較的短い    |
| 効果の判断     | 作物の生育状況         | 根こぶ形成の有無 |

### パストリア水和剤の上手な使い方

**複数作連続使用をおすすめします。**  
収穫後の耕起で次作の株元のパストーリア菌濃度が薄まる可能性があります。株元の菌密度を維持するため、次作も使用することをおすすめします。

**定植時の線虫数に注意してください。**  
定植時の線虫数が多すぎるとパストーリア菌による防除が追いつかない場合がありますので、他の防除方法との併用をおすすめします。  
(クロルピクリンおよび蒸気消毒は除く)

**処理後の灌水量に注意してください。**  
パストーリア菌は自力では動けないので、処理時の薬液量および処理後の灌水量が少なすぎると線虫が加害する場所に到達できず、防除効果が充分出ない場合があります。

### ⚠ 使用上の注意事項

- 本剤は水に溶けにくいので、所定量の水に少量ずつ攪拌しながら加え、均一に分散させて散布液にしてください。
- 定植前に使用する場合、圃場に均一に散布し、土壌中に均等に分布するように良く混和してください。
- 本剤はネコブセンチュウに寄生する天敵なので、本線虫の被害があるところで使用してください。
- 本剤は直接殺線虫力がないので、線虫密度が高い場合は効果が劣るおそれがあることから、既存殺線虫剤と併用することをおすすめします。殺線虫剤を使用しない場合は、太陽熱処理等土壌中の線虫密度を低くする技術との併用をおすすめします。
- 本剤は連作することによって土壌中の菌密度が高まり、土壌中の線虫密度が低くなります。作物の根部には菌が生産されているので、収穫後の根部は土壌中に戻すことをおすすめします。
- クロルピクリンは本剤に影響を与えるので併用しないでください。
- 本剤を生育期のいちじくに使用の場合は、土壌表面散布後灌水等により土壌中に均等に分布させる処置を行なってください。
- 本剤は施用後土壌に定着し、作物を連作することにより数年にわたり菌密度が高くなり、線虫被害を抑えることができます。又、永年作物であるいちじくでは数年経過することによって同様に線虫被害を抑えることができます。従って、本剤の使用方法については、病害虫防除所等の関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。使用後は洗眼してください。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に保管してください。本剤は吸湿性があるので、湿気には十分注意し、使い残りは袋の口を固く閉じて保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所には置かないでください。

NIK-PS2016.9K

取扱い



全農は登録商標 第4702318号



## サンケイ化学株式会社

本社 〒891-0122 鹿児島市南栄2丁目9 ☎(099) 268-7588  
九州北部営業所 〒841-0025 佐賀県鳥栖市曾根崎町1154-3 ☎(0942) 81-3808  
宮崎事務所 〒880-0056 宮崎市神宮東3-6-19 ☎(0985) 25-7051